

令和3年度第2回 川崎市多摩川プラン推進会議

議事録

1 開催日時：令和4年3月8日（火）午後3時～午後4時30分

2 開催場所：建設緑政局 局会議室

3 出席者：(敬称略)

会長	鈴木 誠	東京農業大学名誉教授
副会長	吉富 友恭	東京学芸大学教授
委員	寺尾 祐一	NPO法人多摩川干潟ネットワーク理事
委員	小野 貴之	富士通株式会社
委員	梅原 七重	市民公募
委員	堀 良通	市民公募
委員	江原 和人	市民公募
委員	櫛原 賢二	国土交通省関東地方整備局京浜河川事務所事業対策官

4 議事

(1) 令和3年度川崎市多摩川プラン実施事業及び「多摩川は今」について

(2) その他

- ・第8期多摩川プラン推進会議市民委員募集の結果について
- ・新多摩川プランの改定について

5 傍聴者：なし

6 会議内容

【鈴木会長】 出席の人数がそろっているのであれば。

【事務局】 分かりました。それでは皆さんおそろいではないですけれども、定刻となりましたので、令和3年度第2回川崎市多摩川プラン推進会議を始めます。まず初めに、本日はオンライン会議となっていますが、本日は10名中7名の委員が出席しています。従って川崎市附属機関設置条例第7条第2項に基づき、半数以上の委員の出席により本会議が成立していることを報告します。また、本会議は川崎市審議会等の会議の公開に関する条例に基づき公開するとともに、会議録においては個々の発言者指名を記載しますので、あらかじめ了承を願います。それでは開会に当たり、緑政部長の鈴木よりごあいさつを申

し上げます。

《緑政部長挨拶》

【緑政部長】 緑政部長の鈴木です。今回はオンライン会議にしましたので、皆さんの理解をよろしく願います。今回の推進会議は、令和3年度における実施実績の進捗（しんちよく）状況や主な取り組みのほか、実施事業報告の素案を報告するほか、次期多摩川プランの改定に関する公募の状況結果なども報告したいと思っています。詳しい取り組みについては後ほど事務局のほうから報告してもらいますが、これらの取り組みについては、各方面から協力を頂きながら発展させ、皆さまと共に多摩川の魅力の向上に向けて進めていきたいと思っていますので、本日は忌憚（きたん）のない意見を頂ければ幸いと思っています。どうぞよろしくお願いします。

【事務局】 ありがとうございます。それではこれよりの進行については鈴木会長に願います。

【鈴木会長】 それでは皆さん、こんにちは。聞こえていますか。またオンライン会議ということで、これはストレスがたまるとはですね。手早く効率良く、うまく進行できればいいかなと思っています。いつものとおりですけれども、この時期は令和3年度の多摩川プラン実施事業の報告、冊子の件だと思います。それとその他ということですが、では事務局、資料に沿って説明をお願いしたいと思います。よろしくお願いします。

《事務局より令和2年度新多摩川プラン【多摩川は今】の報告についての説明》

【鈴木会長】 ありがとうございます。議題の1番目の事務局説明が終わったということですね。それでは皆さんから質問あるいは意見を頂きたいと思いますが、いかがでしょうか。

【寺尾委員】 お願いします。

【鈴木会長】 どうぞ、寺尾さん。

【寺尾委員】 8ページです。これはそちらの打ち間違えだと思いますが、水辺の楽校のところで、とどろき水辺の楽校が2つ出ています。上はだいし水辺の楽校だと思います。

【鈴木会長】 本当だ。とどろきが2つあります。

【鈴木会長】 いいですか。事務局、修正してください。

【事務局】 失礼しました。修正します。

【鈴木会長】 ほかはいかがでしょうか。

【堀委員】 堀です。非常に細かいところですが、7ページのところで、写真で確か釣れた魚というのがあったような気がします。魚は当たり前なので、「釣れたハゼ」というキャプションにしておいたほうがいいと思います。第3回多摩川河口のハゼ釣り教室で、実施時に釣れた魚。ハゼ釣り教室なので、これはハゼですね。

【事務局】 そうです。ハゼです。

【堀委員】 「釣れたハゼ」としておいたほうがいいのではないですか。

【鈴木会長】 写真ですね。

【事務局】 承知しました。

【鈴木会長】 見た感じはハゼっぽいですね。

【堀委員】 ハゼならハゼと、魚の名前を入れておいたほうがいいような気がします。

【事務局】 ありがとうございます。

【鈴木会長】 ほかはいかがですか。

【小野委員】 富士通、小野です。実施事業の中の 54 番に、小中学校に環境副読本を配布して、それを電子化してギガスクール端末から閲覧できるようにしました、という活動が紹介されています。活動自体は大変素晴らしいと思いますが、これはあくまで一個人の提案ということで受け止めてほしいのですが。小学校だとギガスクール端末、子どもたちは「ギガ端（たん）」と呼んでいますけれども、ギガ端を使ってテーマを決めて議論をしたりします。ですので、例えば多摩川に関わるような、多摩川の恵みみたいなことをテーマにした調査学習などを小学校で行えば、子どもたちから広まっていくと思います。思い付いたアイデアを提案として発言しました。以上です。

【鈴木会長】 小野さん、今の話は、小学生から意見を聴取するようなインタラクティブなことができないか、という話だったのでしょうか。

【小野委員】 小学生から多摩川に親しみを持ってもらうことが、より多摩川を知ってもらうことにつながるという、そういう背景の下でという考えです。そういう授業の中でテーマを持って自ら調べると、身近に感じてもらえるのではないかと想着て提案しました。

【鈴木会長】 電子版だから、副読本のところにリアクションできるような仕組みというか、そういう話ですかね。

【小野委員】 そこまでできればいいかもしれませんが。

【鈴木会長】 今の小中学校の子どもたちは iPad を持っていたり、うちの孫なんか 3 歳ぐらいなのにすごいですもんね。2 つ 3 つで、おじいちゃんがするようなこと以上のことをしていますから、時代が変わっているなというふうに思っています。事務局もそういう変化に付いていっているかどうか分かりませんが、ツールがうまく使えるようだったら、なるべくということですね。子どもたちに多摩川の今を知ってもらえるような工夫ができないか、という話だと思います。今の副読本に限ったことではなく、もっと広く考えてもいいかと思いますが、あらゆる場面でネットを通じたそういうことができるようなことを、ぜひ事務局には気に留めておいていただきたいと思います。

【事務局】 ありがとうございます。

【鈴木会長】 皆さん、ほかはいかがでしょうか。私から 1 つ。どうしてもこれが気になります。9 ページの中ほどに「かわさき多摩川ふれあいロード延伸整備」とありますよ

ね。その延伸整備の 2 行目に「サイクリングコースとして占用するとともに」と書いてありますね。この占用は河川占用の意味で言っているのだと思うのですが、これだけを見るとサイクリングコース占用ということに一般の人は思えてしまいます。ほかは排除してサイクリングだけが占用する施設と読めてしまいます。

【事務局】 われわれは河川法の占用の意味で書いたのですが。

【鈴木会長】 この文面だけでは、一般の普通の人には通じないです。

【梅原委員】 通じないです。サイクリング占用になってほしくないです。

【鈴木会長】 ということですよね。意図が分かるようにきちんと書いてください。

【鈴木会長】 かわさき多摩川ふれあいロードとして河川敷を占用するというのなら分かるけれども。とにかく表現に気を付けてください。よろしくお願いします。

【事務局】 ありがとうございます。

【鈴木会長】 ほかはいかがでしょうか。

【吉富副会長】 1 ついいでしょうか。

【鈴木会長】 お願いします。

【吉富副会長】 吉富です。大変いろいろな情報が載って、充実していると思います。詳しくはこちらというところの四角の空欄は、QR コードですよ。

【事務局】 はい。

【吉富副会長】 例えば 7 ページなどは、その QR コードの距離があまりにも近いと、アプリの性能によってはどちらを読むかとか区別できない場合があるので、配置の問題が一つ。あとリンク先の情報はどれぐらい詳しいのか、あるいはさらに充実した情報になっているのかというのがあると思います。例えば動画が見られるとか。同じような情報が載っているならあまり意味がないと思いますので、その辺の工夫をどう考えているかというところ。三つ目は、掲載しているサイトがどのぐらい続くのかです。そのサイトの情報が消えてしまうと、QR コードを読んでも「ありません」という表示になるので、どれぐらい維持されるかという問題をどう考えているのか。その 3 点を聞きたいと思います。

【事務局】 QR コードのリンク先ですが、例えば資料の最初に出ている「今昔マップ」については、この冊子の中では表紙だけしか紹介しないのですが、QR コードを読み込んでリンク先を開けば、この冊子の全容が見られるような形で、そこでさらに深い情報が得られるようにということを心掛けています。

【吉富副会長】 いいですね。

【事務局】 あと国交省さんのほうで進めている「多摩川緊急治水対策プロジェクト」については、写真等がホームページで随時更新されていて、われわれも見ているので、そういったところもぜひ写真として見られるように、この QR コードを活用したいと思っています。あまり階層が深くなってしまうと、情報がそこでストップしてしまうとか、そこから波及しなくなってしまうのではないかと思いますので、ある程度階層

の浅い段階で、リンク先を工夫したいと思っています。

【吉富副会長】 分かりました。これまでに作られた QR コードで、少し前のものでどういう問題が起きているかとか、そういうのを少し検証したみると分かりやすいと思いますので、ぜひ検討してほしいと思います。ありがとうございます。

【堀委員】 堀ですけれども、いいですか。

【鈴木会長】 どうぞ、堀さん。よろしくお願いします。

【堀委員】 10 ページに「河川敷のレジャー利用の適正化」という項目がありますけれども、その中で社会実験を実施しましたと記載されています。この QR コードはどのような内容かよく分からないですが、社会実験を実施してどうだったのかということを少し書かないと、ただやりっぱなしだったとしか受け取れません。要するにごみの問題などが非常に多くあって、それがきちんと管理できるかどうかということを含めて。はっきり言って僕は社会実験というのはよく分からないのですが、どういうことなのか。

【事務局】 もともとここは無法地帯と言ったら言葉があれですが、管理者の目の行き届かない範囲のところでごみや騒音の問題があったので、ある程度区画を分けて管理者に入ってもらうようなことを将来的に見越した上で、どういうものが成り立つかということ、本年度は短い日数の中で社会実験として行います。その結果を踏まえて、来年度以降どのようにできるかというのを、あらためてまた検討していくことになっています。確かに指摘のとおり、今回はしましたという紹介だけになってしまっているの、今回の短い期間でどういうものが情報として得られたかという内容を、もう少し工夫して入れていきたいと思っています。

【堀委員】 よろしくをお願いします。それからもう 1 点です。前回はなかなか難しい注文だったかもしれませんが、目次の一番下の SDGs のことで、川崎市は SDGs を実施しているということで、多摩川に関するところで、6 番 11 番 17 番の目標がここにアサインされているのではないかと思います。多摩川に関してこの 3 つを挙げたのだと思うのですが、もう少し具体的にどういう部分で SDGs に『多摩川は今』あるいは「多摩川プラン」が係ってくるのかということ、コラムでもいいので。いろいろなところに配布するのだったら、もう少しこのところを。今は非常に重要視されている部分でもありますので、もう少し簡単でもいいので、記述したらいいと思います。このシンボルマークだけ出しておいても、よく分からないのではないかと思いますので、検討してもらえないですか。

【事務局】 こちらについては次回以降、コラムで詳細について、多摩川と関連する事業も含めて記載したいと思っています。よろしくお願いします。

【堀委員】 環境や多摩川プランそのもので、SDGs に関連する部分がたくさんあると思うので、そこら辺を簡潔にまとめてもらえると分かりやすいと思います。よろしくお願いします。私からは以上です。

【事務局】 ありがとうございます。

【鈴木会長】 ありがとうございます。今、堀さんが指摘した最初の 10 ページは、やはりすごくまどろこしい言い方です。確かにこれは事実だと思いますが、何のために社会実験をして、それがどうだったかというのが。いろいろ問題が起きているから、民間事業者で運営していろいろなことをしてもらったら、うまくいくかもしれないので、それをしてみた。それでどうでしたという話を、単純明快に言ってもらえると分かりますよね。難しいことだけしか書いていないです。すみません。僕も同感なので、ぜひ。

【事務局】 行った結果をとということですよね。

【鈴木会長】 社会実験をもう少し簡単に。なぜ必要なのか。何をしたのか。その評価はどうだったのか。皆さんがその事実をきちんと認識することと、その評価がどうだったかということを明確に伝えることが、この報告書全体の役割だと思います。いつもその原点を忘れないようにしていかないとはいけません。あれをしました、これをしたという羅列では全く、次の展開をより良くするためにはなっていないので、すみませんが、いつも心掛けるようにお願いします。

【事務局】 ありがとうございます。

【鈴木会長】 ほかはいかがですか。

【寺尾委員】 いいですか。 また 10 ページです。これは言葉の問題になると思いますが、区域 1 のところに「バーベキュー」と「グランピング」という記入があります。グランピングはグラマラスキャンピングの略語だと思います。豪華なキャンプという意味合いがあって、例えばホテル星野やなどが運営しているようなキャンプ施設のことを指すと思います。グランピングというのはどういうことをしていたのか聞きたいと思います。

【事務局】 社会実験の担当をしていた貝原と申します。よろしくお願いします。まずここには 4,000 円、8,000 円、12,000 円のプランがあります。グランピングプランと呼んでいたのは、例えばハンモックやソファなど全てを事業者が用意する 12,000 円のプランです。ですので先ほど言われたホテルのようなところまではいかないのですが、質の高いバーベキューというイメージで、そのように呼んで実施しました。

【寺尾委員】 分かりました。ありがとうございます。

【鈴木会長】 皆さんがどう認識するかというところでは、グランピングという言葉自体で、業者さんが使っていたメニューの言葉を使ったとしても、事実と、それをどう認識するのかと、それがどうだったかという評価、それが伝わらないですよね。社会実験ですから、実験効果がどうだったかをきちんと確認しないといけないということです。ありがとうございます。ほかはいかがですか。

【江原委員】 江原と申します。10 ページの社会実験についてです。マラソンコースを毎週走っているものですから、非常に興味深く見ていたのですが、実際にジョギングやサイクリングをしている中で、イベントだけを取り上げるのではなくて、周りの状況も含めて、実験したときの状況について説明してほしいと思います。皆さんと同じ意見で、問題点等

を含めて、今後どう改善していくかを記載する必要があると思います。それから先ほどの「グランピング」という言葉ですが、一般の市民はよく分からないと思います。それから言葉についてですが、3 ページの3の水環境の向上のところ、ちょうど真ん中ぐらいに「雨水の涵養」という言葉が出ています。この言葉も一般の市民の中ではなかなか使われていない言葉なので、こういう特殊な言葉は注釈して広報することが大事だと思います。

それから細かいことですが、最後の事業一覧表は「ですます調」できちんと整理してほしいと思います。最後の事業一覧表は出ますか。14 ページです。非常に細かくて申し訳ないです。14 ページの1のところの「中止しました」は「中止した」でいいと思います。15 ページの7の上段の33も「行っています」となっていますが、ほかは「行っている」になっています。非常に細かいことですが、やはりですます調等、言葉の記載についてはきちんと整理したほうがいいと思います。以上です。

【鈴木会長】 ありがとうございます。より良い、理解しやすい『多摩川は今』作りをよろしくお願いします。

【梅原委員】 いいですか。梅原です。

【鈴木会長】 梅原さん、どうぞ。

【梅原委員】 まだ作っていないのかもしれませんが、コピーされたものに QR コードがなくて、中身を見ることができませんでした。QR コードは白紙になっていますよね。実際のものにはあると思いますが、このコピーにはないです。まだ作っていないということですか。実際にはもうあるのですか。

【事務局】 ホームページ等はもうできているものもあれば、これからアップされるものもあるのですが、今回の資料の中では、QR コードの落とし込みまでは間に合いませんでした。申し訳ありません。

【梅原委員】 私は QR コードにすごく興味があります。いつもそれを参考にしている調べているので、QR コードが充実していると、これからの若い人たちにすごく受けると 생각합니다。今までなかったこれできたということは、すごく進歩的でいいなと思うのですが、中身がどうなっているのかということが少し気になっていて、見るチャンスが欲しいなと思っています。そうするとともにいろいろな意見が言えると思います。私は専門家ではないので、細かいことが書いてあってもよく分かりませんが、市民の立場、見る人の立場で QR コードの内容がすごく気になります。ここに書いていないことが、QR コードを見ることによって全て分かるのかなということが気になるので、ぜひそれを見る機会をつくってほしいと思います。QR コードの入ったものを下さい。

【事務局】 いずれにしても配りますので、その中で QR コードをきちんと反映できるように対応します。

【梅原委員】 見させてください。楽しみにしています。

【鈴木会長】 ありがとうございます。今までと違って全てに QR コードが付いて、エ

クストラの情報を得られるということで、皆さん興味津々ということです。ただ、作業が間に合っていないというのも事実でしょうか。

【櫛原委員】 国土交通省の櫛原ですけれども、いいですか。

【鈴木会長】 どうぞ。

【櫛原委員】 スケジュールを確認したいです。たぶん今作っている途中だと思いますが、パンフレットを配布する時期や、校正の機会があるか。京浜河川事務所のことも書いてあるので、確認したいと思います。

【事務局】 例年、配布は来年度の 5 月ごろになっています。本年度中には内容を固めて、製本として仕上げていきたいとは思っています。

【櫛原委員】 一度校正というか、確認する機会がありますか。

【事務局】 送ります。

【櫛原委員】 お願いします。

【鈴木会長】 ありがとうございます。京浜河川事務所関係のところを確実にするという意味ですね。よろしくお願いします。

【鈴木会長】 ほかはいかがですか。

【堀委員】 堀です。目次のところに、一番最近の多摩川スカイブリッジが入っていないのですが、入るのですか。

【鈴木会長】 本当ですね。事務局、いかがですか。ブリッジは完成しますか。

【事務局】 する予定です。恐らく昨年度も完成予定という形で入れていたかと思うしますので、本年度も入れます。

【鈴木会長】 堀さん、気付いてもらってありがとうございます。先ほどのたまずんが住民票をもらったという話ですが、どういうものか見たいので、その住民票を表紙のたまずんの脇に。余計ですか。表紙の右のほうが少し空いているかなと思いました。たまずんは多摩区の住民票を持っているのですよね。どこかに書いてありましたよね。

【梅原委員】 書いてありました。

【鈴木会長】 きっとペーパーの住民票を作ったのですよね。

【事務局】 そうです。多摩区役所が作成して交付してデータもあるので、載せることは可能です。

【鈴木会長】 表紙がいいか、あるいは触れたところがいいかは任せます。レイアウト上あまり良くなければ住民票のところでもいいし。知らない人が見たら、何だこいつはと思うかもしれないけれども、そこに住民票があつたら、これがたまずんか、多摩区民なのかと、とても理解が速いと思います。

【梅原委員】 住民票は QR コードにはできないのですか。みんな見たいと思います。

【事務局】 多摩区役所のホームページに掲載されているので、リンクを貼ることは可能です。ですので住民票の件も含めてレイアウトを検討しながら、本編か表紙か検討した

いと思います。

【鈴木会長】 ありがとうございます。そのほかはいかがでしょうか。

【江原委員】 江原ですけれども、1点ほどお願いします。

【江原委員】 昨年ふれあいロードの名称が決まって、ゆっくりなどいろいろな表示をしてもらい、ジョギングや散歩、サイクリングをしている人の調和が非常に取れ、また、ふれあいロードも拡張されたりして非常に良くなったと感じています。そういう中で二子玉川は楽天があって外国人が多く、自転車を飛ばすので、一昨年、英語表記の話を一度したことがあると思います。スペースも少し空けてあるという話だったのですが、英語表記の話はどういう形で進んでいるのでしょうか。よろしくお願いします。

【事務局】 自転車のスピード抑制については、この冊子の中でも紹介しているハンプや路面標示には随時取り組んでいます。英語表記にまでは手が届いていないのが現状ですが、路面標示もまだ十分足りていないところもありますので、内容も含めて今後の課題というか宿題にできればと思います。

【江原委員】 分かりました。

【鈴木会長】 ほかの河川敷でも、サイクリングをする人がスピードを出し過ぎるという同じ問題が出ています。そのピクトグラム、絵文字はないのですか。オリンピック・パラリンピックを見ていると、東京大会が最初に絵文字を作って「Emoji」という言葉が世界共通の言語になっているという話を聞きました。スピードを出さないでという自転車マークはあるのでしょうか。あるのだったらそういうのがあればと思ったのですが。ほかの川でも同じようなことでずっと悩んでいるところがあります。荒川筋もそうですし、多摩川も上流のほうに行けば、そういうことを言っている人たちがいます。報告事項というか、直接『多摩川は今』に反映することではないかもしれませんが、これは川崎だけではなくほかにも関係することなので、調べてみてください。よろしくお願いします。

【梅原委員】 絵文字はいいかもしれないですね。

【寺尾委員】 寺尾です。

【鈴木会長】 寺尾さん、どうぞ。

【寺尾委員】 また表紙に戻るのですが、表紙にカニの写真が出ています。これは私が見てもケフサイソガニかなというぐらいしか分からないので、もう少し。

【梅原委員】 カニですか。分からなかったです。

【寺尾委員】 恐らくケフサイソガニの雄と雌だと思います。右側が雌で左側が雄。せっかくだったらもう少しきれいな写真を使ったほうがいいと思います。干潟から出てきたというか、そういうところから捕まえて泥にまみれ過ぎています。干潟館に行くといくらでも写真はありますので、聞いてみてください。ベンケイガニか何かのほうが本当はきれいなのではないかと思います。すみません。よろしくお願いします。

【鈴木会長】 ありがとうございます。ほかはどうですか。だいたい出そろっています

か。どうでしょうか。例えば1週間ぐらい、今週中ぐらいは皆さんから直接指摘してもらえば、修正は可能ですよと。ただ、100%というか完璧なものはないので、いつまでもずるずるやっても仕方ないので、ここで一回区切っていいでしょうか。

【鈴木会長】 ありがとうございます。では、もしまだ追加で気が付くことがあったら、事務局に今週をめどに連絡してください。そして事務局は修正作業を進めて、出版に向けて取り組んでもらえたらと思います。今回頂いた意見の中でも、次年度に取り組むべき内容もありましたから、そこは適宜判断してもらって結構です。いいですか。

【事務局】 ありがとうございます。

【鈴木会長】 それでは皆さんに了解してもらえれば、その他の議事に移りたいと思いますが、発言はいいですか。ではその他、まずは第8期多摩川プラン推進会議市民委員募集の結果について、事務局、説明をお願いします。

《事務局より第8期多摩川プラン推進会議市民委員募集の結果について説明》

【鈴木会長】 梅原さんが「私は今期で卒業よ」と言っていたのは、きつこの話ですね。ということは応募者全ての方が市民委員になるという理解でいいですか。

【事務局】 そうです。

【鈴木会長】 ありがとうございます。梅原さんが勇退するということで寂しい気もしますが、次の方に道を譲ると。まさしく勇退ですね。

【梅原委員】 そうです。

【鈴木会長】 僕もそろそろ勇退（笑）。余計なことを言わないで。いいですか。報告事項ですが、皆さんから意見というか何かあれば。なければもう一つの新多摩川プランの改定について、事務局、お願いします。

《事務局より新多摩川プランの改定について説明》

【鈴木会長】 それでは皆さん、何か意見があればよろしくお願いします。来年度も中身はどうするかという話は継続するのですか。あるいは令和6年に改定して、プランの計画が10年で、必要に応じて実施事業修正・新設を途中で行うということで、来年度から作業が始まるのですか。

【事務局】 そうです。事前の準備をプラン会議でも紹介できればと思っています。

【鈴木会長】 古くなったプランだから、改定して早く次のことを考えたほうがいいというのは、まっとうな話だと思います。皆さん、いかがですか。

【小野委員】 小野ですけれども、いいですか。10年後を見据えて適宜、小改定を行うと。その意見に賛成します。ただ、いわゆる基本目標を変えていくという捉え方だと思います。

言い換えると、10年先のあるべき姿みたいなものを基本目標に反映していくということだと思います。基本目標自体を10年間固定すると最初から決めるのではなくて、途中、状況変化が起こるかもしれないので、基本は10年でいいと思いますが、出来事があってトリガーがあれば、必要に応じて基本目標の見直しみたいなものもしていくということを含んでいったほうがいいと思います。

あとは数値化が難しい事業もあるかと思いますが、やはりゴールを明確に決めて、進捗を見える化していくということは、効果が分かりやすく伝わるという面もあると思うので、できるだけ何らかの表現で進捗を出していくことを考えたほうがいいのではないかと思います。多分に主観的な判断が入ってしまうかもしれませんが、例えば「○△×」みたいに大まかな3段階でもいいので、「この事業は大まかにこれぐらい来ている」みたいな表現の仕方もあるのではないかと思います。「それぞれの事業の評価を合わせると、基本目標はここまで達成できている」というふうに進捗を見せていく、結果を見せていくことが必要ではないかと感じたところです。私からは以上になります。

【鈴木会長】 ありがとうございます。ほかはいかがですか。何か意見があれば。私自身はこれを事前にもらったときに、たくさん意見を言っています。

【堀委員】 堀ですが、いいですか。進捗状況の評価していくのは非常にいいことだと思います。例えば6番のところで事務局が例を挙げたと思いますが、要するに施設整備みたいに、かなりの年数で計画的に予算も付けて行っていくものと、自然観察会などの催し物みたいに、年度ごとにどれだけ行っていくか目標がきちんと立てられるものがあります。そこは区別をして進捗状況の評価していくことが大事だと思います。施設整備が何十%、スポーツ大会が何十%というのを全部ひっくるめて、同列に評価するのは難しいと思うので、そこら辺の工夫は必要だと感じました。以上です。

【事務局】 ありがとうございます。

【鈴木会長】 ほかにいかがですか。プランの進捗をチェックすることは大事ですよ。手続きは皆さん了解ですよ。ただ、進捗状況のところが新多摩川プランの課題で、その課題は解決するように頑張りましょうという話ですね。この時点で何かいい知恵、アドバイスがあれば。いかがですか。

【寺尾委員】 寺尾です。新多摩川プランの改定についてから、少し趣旨が離れるかもしれませんが、川崎市はたぶん大正13年の7月1日に誕生して、2024年に100周年を迎えると思います。100周年に向けて多摩川を利用して何かをすることは考えていますか。

【事務局】 令和6年度に100周年を迎えるということで、今、緑化フェアを誘致しており、国土交通大臣から正式に許可が下りています。緑化フェアの取り組みの中で当然、多摩川についてもサブ会場ということで考えていますので、多摩川ですることについては、具体的には今後計画を立てていく予定です。

【寺尾委員】 ありがとうございます。趣旨から逸れました。

【鈴木会長】 市政 100 年緑化フェアに盛り上がりがありそうですね。改定でいいプランができるといいですね。

【鈴木会長】 この件はいいですか。皆さんだいたい良さそうな感じですので。

【江原委員】 1 つだけ。

【江原委員】 一つは多摩川プランを改定するに当たり、IT については非常に進んでいるので、今後 10 年を見据えて、デジタルの手法などを生かした多摩川プランを取り入れていく必要があるだろうと思います。一般の市民にプランを浸透させるという意味も含めて、推進の人たちの中でのデジタル化と、市民向けに発信する市民へのデジタル化を盛り込んでいく。「アナログからデジタル」という形の基本的な考え方が必要だと思います。

それからもう 1 点。オリンピック等が開催されて「ダイバーシティ&インクルージョン」という言葉が今後は必要ということで、新多摩川プランにはそういう考え方を取り入れた施策が必要だと思います。いろいろな局の総合的なものだと思いますが、そういう局にもそういうことを発信して、そういう課題に新たに取り組む、あるいは応用していくことが必要だと思います。以上です。

【鈴木会長】 ありがとうございます。結構皆さんプラン改定の中身の話になってきましたけれども、とにかく改定を実施していくことで一致しているわけですから、またいろいろな立場で中身については発言してほしいと思っています。

【鈴木会長】 そうするとだいたい 1 時間半が限度ですよ。今日の議事はこれでおしまいでいいですか。

【事務局】 事務局から提案した議事は以上になります。

【鈴木会長】 今期最後ですので、皆さんから何か発言があれば。

【梅原委員】 梅原です。これで最後ですが、寂しいなと思って。コロナのおかげでみんなと顔を合わせる機会が少なくなってしまうと、とても寂しかった 1 年だったと思っています。いろいろな方のお話が聞けてとても勉強になりましたし、私は多摩川が大好きなので、今後、多摩川がより良い魅力的な川になって、いろいろな事業が発展していくのを、これからもずっと見守っていきますので、皆さん頑張ってください。楽しみにしています。『多摩川は今』はずっと見ていきたいと思うので、冊子を送ってもらえると嬉しいです。手に入れるところがないので、機会があったら 1 年に一遍見せてください。

【鈴木会長】 市民委員経験者にはしつこく送るということで議決しておきましょう。

【梅原委員】 今度は次の市民委員に応募しましたので、そちらでも頑張ります。市民委員の皆さん、ありがとうございます。頑張ってください。

【鈴木会長】 ありがとうございます。ご苦労さまでした。

【事務局】 ありがとうございます。

【鈴木会長】 それでは私の進行はここでおしまいにして、事務局に返したいと思いますが、いいでしょうか。皆さん、ありがとうございます。

【事務局】 大変ありがとうございました。本日鈴木会長をはじめ委員の皆さま方より、活発な議論と貴重な意見を頂き大変ありがとうございました。事務局としては本日頂いた意見をしっかり受け止め、川崎市新多摩川プランに基づく施策の推進をさらに進めていきたいと考えていますので、委員の皆さまにおいても力添えのほどよろしくお願いします。

最後に事務局より連絡事項です。来年度、組織改正が行われ、全国都市緑化川崎フェアに向けた取り組みを推進するため、今の多摩川施策推進課は解体という形になります。多様な主体との協働によるグリーンコミュニティの形成に向けた取り組みを推進する「みどり多摩川協働推進課」を新たに設置することになりますのでお知らせします。詳細については、また次年度以降の会議の中で説明します。また、次回の川崎市多摩川プラン推進会議については次年度以降も予定していまして、例年どおり 8 月ごろの開催を予定しています。時期が来ましたら事務局より案内を差し上げますので、よろしくお願いします。本日はお忙しい中、委員の皆さまに出席していただき、活発な議論とたくさんの意見を聞くことができました。本年度も川崎市新多摩川プランに基づき施策を推進していきますので、よろしくお願いします。以上をもって令和 3 年度第 2 回川崎市多摩川プラン推進会議を終了します。本日は誠にありがとうございました。

【一同】 ありがとうございました。

【鈴木会長】 またよろしくお願いします。失礼します。